

## 日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請（認定番号                      認定期間                      年                      月                      日～                      年                      月                      日）  
（いずれかに✓）

■申請年月日    2020年    9月    23日

■コレクションのテーマ  
変わり葉ゼラニウム品種群

■申請団体・申請者名  
広島市植物公園

■申請団体の代表者名（個人での申請の場合は不要）  
非公開

■申請団体・申請者の連絡先（住所、電話、メールアドレス）  
非公開

■コレクションの所在地（コレクションが分散している場合は主たる所在地）  
広島市佐伯区倉重 3-495    広島市植物公園

■現地審査希望時期

10月下旬 ～ 5月下旬

希望する理由：品種の特徴が最も現れるのは、低温に遭遇する秋から春にかけての時期である。梅雨時期から初秋までは葉芸が確認しにくいため避けたい。  
また3月中旬から4月中旬であれば「ゼラニウム展」を開催しているため、公開の様子を評価していただくことが可能だが、その他の時期でもバックヤードで栽培状況を審査していただくことが可能。

## ■コレクションのテーマ

### 変わり葉ゼラニウム品種群

## ■コレクションの概要

「変わり葉ゼラニウム」とは、ペラルゴニウム属のゾナレ・グループ (*Pelargonium Zonal Group*、通称ゼラニウム) の中で、葉の斑模様や形、質感などが特異的に変化した葉芸をもつ品種群を指す。大正時代から昭和初期にかけて大流行した品種群であり、現在カラーリーフプランツとして流通しているゼラニウムの栽培品種とは区別している。

広島市植物公園では、1980年から始まった「ゼラニウム展」の充実を図るため、開催年前後から徐々にペラルゴニウム属の様々な品種を収集し始めた。ゾナレ・グループは一般に親しまれているものの、変わり葉ゼラニウムはその存在も歴史も知名度が低かったため、世間に広く知ってもらおうと、主に愛知県岡崎市にあった旭植物園より品種を導入した。旭植物園は明治時代に開業した斑入り植物専門会社であり、変わり葉ゼラニウムを大正時代から3代にわたって生産、販売していたが、2013年4月に廃業した。当園では、2013年までに旭植物園や個人趣味家から通算約100品種を導入したが、栽培途中で枯死するほか、先祖返りをはじめ葉の斑が消えたり葉形が変化したりするなどして品種を失ったため、現在は43品種を保有している。それらは、毎年3月中旬～4月中旬に開催するゼラニウム展にて一般公開している。

変わり葉ゼラニウムは明治末期から大正時代における欧米からの輸入をきっかけに流行が始まった。欧米では花壇用のカラーリーフプランツとして利用されていたものであったが、日本では葉芸を觀賞する鉢植え植物として扱われた。輸入時の品種名は日本名に付け変えられて販売され、多くの地域で同好会ができ、銘鑑が作られた。枝変わりて生じた品種に加え、交配による実生栽培も盛んに行われた。大正3～5年(1914～1916年)と昭和2～4年(1927～1929年)には大ブームを巻き起こし、投機の対象になることもあった。昭和3年(1928年)に五色葉の‘千代田錦’は当時の価格で1350円という高値で取引されたことが『実際園芸』で記されている(濱島,1933)。葉の斑や形の変化だけでなく、冬になると紅葉する‘光山錦’や‘瑞雲錦’や、葉先に黄色い斑が現れる‘漣’といった品種もある。横浜植木株式会社編『園芸植物図譜・斑入葉葵の巻』(1915)の図譜には飾り鉢に植えられたコンパクトな姿が示されており、床の間飾りのように觀賞されたと想像される。このように、もともとは外国産の変り葉ゼラニウムは日本に輸入された後、日本人の美意識によって独自に発展していった園芸植物であるといえる。

戦後になると変わり葉ゼラニウムの人気は衰退し、現在は極少数の個人愛好家及び生産者が丈夫な品種のみを栽培している状況であるが、枝変わりが生じやすい性質であることから、その品種の本芸を維持したまま品種保存がなされているかどうかは疑わしい。当時の品種名とは全く別の販売名を付けて流通させている場合も多い。

当園では、旭植物園の3代目園主加藤政治氏(2017年没)の存命時に、直接、個々の品種の本芸について教わり、以後も常々注視して品種を維持している。本芸を保った43品種のコレクションは国内最大であると思われる。

本品種群の歴史に関する資料はこれまでほとんどなかったが、当園では、資料調査および加藤政治氏に直接聞き取り調査を行うなどして変わり葉ゼラニウムの栽培史をまとめ、当園紀要32号(2014)で発表した。本誌では誰もが品種の本芸を確認しやすいように、品種

の特徴一覧と 95 品種の写真を掲載している。また、ゼラニウム展では、パネルや資料を使って品種と歴史を解説している。

#### 引用文献

濱島松三郎 1933. 斑入葵の流行品種と栽培. 実際園芸 14(6):491-496. 誠文堂新光社, 東京.  
横浜植木株式会社 (編) 1915. 斑入葉ゼラニウム. 園芸植物図譜 第二巻・第十一輯 斑入葉葵の巻. 横浜植木株式会社, 神奈川.

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数（保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出）

- ・43 品種
- ・1 品種につき 2~4 鉢保有

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

明治時代から昭和時代に発表された変わり葉ゼラニウムの品種は、当時の種苗会社のカタログや地域の同好会の銘鑑で数えると、延べ 300 品種程度と推定される。当園では 43 品種を保有している。

■コレクションの栽培管理状況（所在地が分散している場合は、ここに全てを列記）

通常、当園のバックヤード温室で栽培管理を行っている。

栽培担当者は 2 人であり、正規職員 1 人が主に灌水、植え替え、挿し芽等の一連の管理を行い、臨時職員がそれを補助している。高温多湿に極めて弱い品種と生育状態が悪い品種に限り、夏は冷房温室で管理している。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

ペラルゴニウム属約 600 種類（野生種および栽培品種）のコレクションの一部として、変わり葉ゼラニウムの導入記録をデジタルデータで管理している。2000 年以前の導入記録はないが、2000 年以降は、個体識別番号、品種名、導入時期及び導入元などの項目をデータ管理している。

■コレクションのラベル表記状況（栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど）

品種名のみを記した園芸用プラスチックラベルを付けて管理をし、展示時には 70×100mm のラベルに学名（ラテン語表記と日本語表記）、変わり葉ゼラニウム品種群であることを付記し、表示している。

■コレクションへの協力団体・協力者（種名の同定、導入など）

ほとんどの品種を愛知県岡崎市の旭植物園から、ごく一部を個人愛好家から導入した（詳細は保有植物リストに記載）。旭植物園の園主加藤政治氏の存命時に全品種を確認してもらい、疑わしい品種は廃棄した。

■コレクションの長期保存のための方策と体制（増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等）

栽培場のスペースが乏しいため、1品種2～4鉢を保有しているが、本品種群の虚弱な性質に鑑みると十分とは言えない。当園で増殖した品種は公的機関、趣味家を問わず希望があれば分譲したい。しかし、当園担当の正規職員以外に、栽培技術と本芸を見極める能力を有しているものが日本中にほぼいないため、たとえ分譲しても、先祖返りなどの形質の変化に気づかずに品種が維持できなくなる可能性が高い。まずは当園での後継者の育成を急いでいる。また、形質の特徴やこれまでに栽培した品種の写真を広島市植物公園紀要第32号に掲載しているのので、これを参考に、当園以外の人にも栽培してもらいたい。今後はナショナルコレクション認定制度を通じて危険分散体制を整えたい。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績（研究等を含む）

展示会：1980年から毎年3月中旬から4月中旬に、「ゼラニウム展」を開催。変わり葉ゼラニウムの歴史をパネルで解説するほか、銘鑑や画譜（コピー）、種苗カタログなどを紹介している。

研究報告：島田有紀子。「変わり葉ゼラニウム」の日本への導入および発展の歴史。2014。広島市植物公園紀要第32号：p. 1-52.

島田有紀子。「変わり葉ゼラニウム」の日本への導入および発展の歴史。2015。日本植物園協会誌第50号：p. 44-46.

※認定されたナショナルコレクションの情報（非公開および個人情報を除く）は、日本植物園協会のホームページ上で公開し、また報道資料等、当協会のナショナルコレクションに関する事業に使用できるものとします。その他の情報の公開や使用については、申請者との協議によって決定することとします。以上の使用範囲に同意の上、申請をお願いします。

◎別紙「申請書記入要領」および「認定コレクション申請書記入例」（<http://www.syokubutsuen-kyokai.jp/nc/>）を参考に詳しく記載してください。必要に応じて行数を増減してご記入ください。申請書、保有植物リストや写真データ時の作成や送付について、ご不明な点があれば、お気軽にナショナルコレクション委員会までお問い合わせください。

◎申請書の専門的な内容やデータの扱いや入力方法等につきましては、委員会でお手伝いすることも可能です。

◎申請書は郵送またはメールで、また保有植物リストおよび写真は CD-R または USB メモリなどのディスク媒体をナショナルコレクション委員会宛に郵送してください。なお、媒体は返却しません。

公益社団法人日本植物園協会 事務局内 ナショナルコレクション委員会  
〒114-0014 東京都北区田端 1-15-11 ティーハイムアサカ 201  
TEL : 03-5685-1431 FAX : 03-5685-1453  
E-mail: jabg-nc@syokubutsuen-kyokai.jp